

平成13年2月定例会議の講演より

2月の定例会議の講演は講師の高齢者保健福祉課長 高梨博和氏より
荒川区の「介護保険実施後、在宅サービス利用者の活用状況調査」資料を参照しながら、
お話し頂きました。(調査期間 H12年7月 12月)

調査は介護保険実施前に、ホームヘルプサービス利用者されていた691名の方を聞き
取り調査された報告です。

資料は介護保険実施前、訪問介護利用者の85%(481名)は無料でありましたので、
介護保険制度実施後の利用者の気持ちがよく表わされていると思われました。

1) 初の要介護度認定状況は

要支援(108名19%)、要介護1(190名33%)、要介護2(103名18%)で70%占め、
要介護3、要介護4、要介護5は149名(26%)でした。

特に、要介護4(45名)、要介護5(37名)の82名からは今後施設入所希望される方
が出て来ると考えられます。非該当は18名でしたが生活支援ヘルパー派遣されて対
応されています。

2) 要介護度認定結果をどう受けとめられたか

納得出来る人(49%)と不満でないが、分からない人(38%)の数字を合わせると
と最初の要介護認定としては理解されている感じです。

3) サービス種類の利用量の変化は

訪問介護、訪問入浴、訪問看護、訪問リハビリ、通所介護、通所リハビリ、短期入所
介護、短期入所療養介護、居宅療養管理、福祉用具等どれもが介護保険実施前より
利用量が増えています。

4) サービスの満足度は

訪問介護、訪問入浴、訪問看護、通所介護、通所リハビリ、短期入所療養介護、居宅
療養管理、福祉用具等は90%普通以上の満足していますが、短期入所生活介護26%
の人が不満を訴えています。今後の施設の課題と思います。

5) 費用の負担額の印象は

妥当、おおむね妥当である	54%
負担である、重い	28%
生活保護世帯・無回答・他	18%

介護実施前の85%は無償であった為負担感を感じたと思います。

6) ケアプランについて

満足	52%
どちらとも言えない	40%
不満	8%

利用者の身体状況のとらえかた、介護度の費用限度額内での利用種別の制限、利用したい施設の空き状況、プランの説明が理解できない、ケア - マネジャー作業量の増加等初めてのケアプラン作成で利用者の気持ちと合わない点が生じたことと思います。6ヶ月毎の見直しで話しをされて行くと利用者も納得されたプランが出来上がると思います。

7) 介護保険制度全体についての感想

介護保険実施前より良くなった	18%
どちらとも言えない	56%
介護保険実施前より悪くなった	26%

悪くなった理由の半分は自己負担金が増えたことでした。

どちらとも言えない人(317名)の内容分析も大切な事と思います。

今後の区の考え方

施設の問題かと思われる、H13年2月特養入所希望者291名中、区内を希望している人250名います(面会に行ける、住みなれた地域がよいとの理由で)。介護保険では施設から在宅への考え方であったが、区では一人暮らしやお年寄り同士の介護が多く施設入所が考えられます。出来る限り介護を受けるまえに、健康事業を充実したいと考え、高齢者クラブ等に講師派遣することも考えているようです。

講演時間の限られたなかで、説明も大変と思いましたが、貴重な調査資料で荒川区の介護保険制度実施後の利用者意識がよく表れています。

今後も利用者意識の調査を継続され、問題点の把握と対応に力を入れて行かれることをお願いしたいと思います。

(蛭名 記)